環境ニュースレター

Environmental Newsletter

No.20

発行日：2015.1.16

小安峡（湯沢市）

Contents

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第５次評価報告書 統合報告書 政策決定者向け要約（SPM）の概要（速報版） 2~3

IPCCリポートコミュニケーターの派遣について 3

第14回あきたエコ＆リサイクルフェスティバルが開催されました 4

平成26年度環境大賞受賞者 5

こどもエコクラブ、環境学習の紹介 6

環境マネジメントシステムについて 7

Information 8

IPCC5次評価報告書の概要（速報版）が公表されました

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書 統合報告書政策決定者向け要約（SPM）の概要（速報版）

要約1から4までの主要な部分を紹介します。要約の詳細は、環境省ウェブサイトでご覧ください。
SPMは政策決定者向けですので、修正される場合があります。

SPM 1 観測された変化及びその要因

気候システムに対する人間の影響は明瞭であり、近年の人為起源の温室効果ガスの排出量は史上最高となっている。近年の気候変動は、人間及び自然システムに対し広範囲にわたる影響を及ぼしてきた。

SPM 1.1 気候システムの観測された変化
SPM 1.2 気候変動の原因
SPM 1.3 気候変動の影響
SPM 1.4 極端現象

SPM 2 将来の気候変動、リスク、及び影響

温室効果ガスの継続的な排出は、更なる温暖化と気候システムの全ての要素に長期にわたる変化をもたらし、それにより、人々や生態系にとって深刻で広範囲にわたる不可逆的な影響を生じる可能性が高まる。気候変動を抑制する場合には、温室効果ガスの排出を大幅かつ持続的に削減する必要があり、排出削減と適応を合わせて実施することによって、気候変動のリスクが抑制されることとなるだろう。

SPM 2.1 将来の気候の主要な駆動要因
SPM 2.2 気候システムにおいて予測される変化
SPM 2.3 変化する気候に起因する将来のリスクと影響
SPM 2.4 2100 年以降の気候変動、不可逆性、及び急激な変化

SPM 3 適応、緩和、持続可能な開発に向けた将来経路

適応及び緩和は、気候変動のリスクを低減し管理するための補完的な戦略である。今後数十年間の大幅な排出削減により、21 世紀とそれ以降の気候リスクを低減し、効果的な適応の見通しを高め、長期的な緩和費用と課題を減らし、持続可能な開発のための気候にレジリエントな（強靭な）経路に貢献することができる。

SPM 3.1 気候変動に関する意思決定の基礎
SPM 3.2 緩和及び適応によって低減される気候変動リスク
SPM 3.3 適応経路の特徴
SPM 3.4 緩和経路の特徴

SPM 4 適応及び緩和

多くの適応及び緩和の選択肢は気候変動への対処に役立ちうるが、単一の選択肢だけで十分というものはない。これらの効果的な実施は、政策と全ての規模での協力次第であり、他の社会的目標に適応や緩和がリンクされた統合的対応を通じて強化されうる。

SPM 4.1 適応及び緩和にとって共通の有効な要因及び制約
SPM 4.2 適応のための対応の選択肢
SPM 4.3 緩和のための対応の選択肢
SPM 4.4 適応と緩和、技術、資金に関する政策アプローチ
SPM 4.5 持続可能な開発とのトレードオフ、相乗効果、相互作用

私たちができることは何か、よく考えて行動することが未来につながります。

温暖化がこのまま進むと、地球という星の表面を借りているもの全てが困るようですが、そうならないよう、人間が行動を起こさなければならないところに、来ているようです。

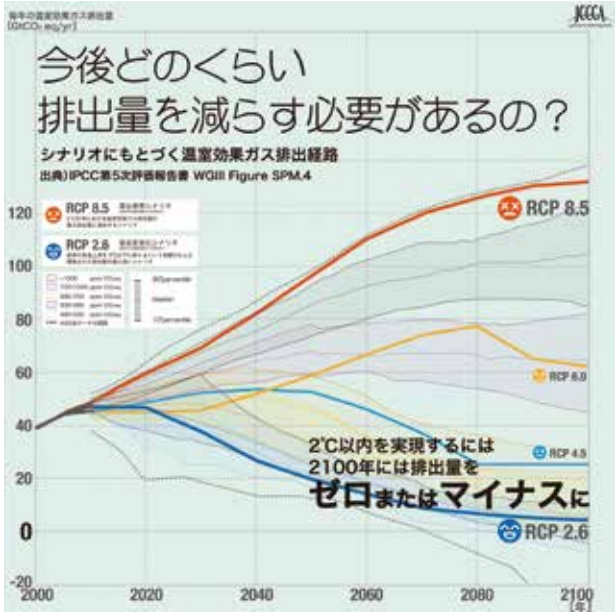
個人ではそれぞれ小さな行動でも、相乗効果で改善の方向に向かうものと思います。

いま何をなすべきか、何を子供たちに残すのか、を考えると、おのずと答えは見つかるかもしれません。

IPCC第5次評価報告書における
RCPシナリオとは

RCP…Representative Concentration Pathways（代表濃度経路シナリオ）

略称		シナリオ（予測）のタイプ
	RCP 2.6	低位安定化シナリオ 将来の気温上昇を2℃以下に抑えるという目標のもとに開発された排出量の最も低いシナリオ
	RCP 4.5	中位安定化シナリオ
	RCP 6.0	高位安定化シナリオ
	RCP 8.5	高位参照シナリオ 2100年における温室効果ガス排出量の最大排出量に相当するシナリオ



詳細・確認先（リンク先）

環境省：http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=18877
経済産業省：http://www.meti.go.jp/policy/energy_environment/global_warming/global2.html
気象庁：http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar5/
全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）：http://www.jccca.org/（温暖化用語集、IPCCのいままでの報告書等）

特定非営利活動法人環境あきた県民フォーラムでは、IPCCリポートコミュニケーターを派遣します！

IPCCリポート コミュニケーターとは、「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」により作成された「第5次評価報告書(AR5)」の内容を、広く一般の国民に伝えていく「伝え手」として活動する人々です。

「AR5」は、最新の科学的知見に基づいた信頼性の高い気候変動（地球温暖化）に関する情報を提供しています。コミュニケーターはAR5を基に作られたプログラムを使用し、それぞれの専門分野に関連のある最新の気候変動の情報を判りやすく伝える活動を行っています。

コミュニケーターの活動は、広く一般国民に、積極的な気候変動対策への取組の機運を醸成し、個人の行動変容につなげることを目的としています。

無料です！

企業の勉強会、町内会や少人数のグループ・サークル活動・学校の環境学習に活用ください。（使用する機材、データ、配布資料は無料です。所要時間についても、お気軽にご相談下さい。）

問合せ・申込先

特定非営利活動法人　環境あきた県民フォーラム
〒010-1403　秋田県秋田市上北手荒巻字堺切24-2　遊学舎内
TEL/FAX　018-839-8309

第14回あきたエコ＆リサイクルフェスティバルが開催されました

平成26年9月6日（土）・7日（日）、秋田駅前アゴラ広場・買い物広場大屋根「ビッグルーフ」で「第14回あきたエコ&リサイクルフェスティバル（以下「エコフェス」）」が開催されました。今回のエコフェスは「見つけよう、未来へのエコメッセージ」をテーマに、楽しみながらエコをもっと身近に感じてもらうことを目的に行われました。両日とも天候に恵まれ、2日間で28,000人が来場しました。

聖霊幼稚園の園児による「エコであんべいいな」

6日の午前10時に開会式が行われ、聖霊幼稚園の園児による「エコであんべいいな」でオープニングステージをかざり、エコフェスがスタートしました。

開会式ではエコフェス実行委員長である環境あきた県民フォーラム理事長の桃崎富雄、堀井啓一秋田県副知事より挨拶があり、その後は環境大賞表彰式が行われました。

堀井啓一秋田県副知事

環境あきた県民フォーラム理事長の桃崎富雄

秋田県では毎年度、環境保全に関する実践活動が他の模範となる個人又は団体を「環境大賞（知事表彰）」として表彰しています。※表彰写真、受賞者一覧をご覧ください。

また、八郎湖水質保全キャラクターのシンボルキャラクターの愛称募集では9市町村より351点の応募があり、その中から「八郎湖がきれいになって欲しいという願いを込められた「清龍（せいりゅう）くん」という愛称に決定し、表彰式が行われました。

八郎湖水質保全シンボルキャラクター愛称募集表彰式

今回のエコフェスでは41団体の出店があり、出展したそれぞれの団体は、様々なエコの技術や製品を紹介し、来場者の方々に実際に体験してもらうことでその取り組みをアピールしエコについて呼びかけていました。

人力発電でかき氷を作ろう！

環境あきた県民フォーラムでは、イオンチアーズクラブ（中仙店・横手店・御所野店）の環境学習の成果の壁新聞の展示を行いました。イオンチアーズクラブは昨年度の活動報告を壁新聞にまとめ、ブース前を通る人たちが立ち止まりエネルギーについての壁新聞を興味深く観ていました。また、太陽熱を利用したソーラークッカーでエコクッキングを行いました。

会場のステージでは、子どもに人気の超神ネイガーも登場し、超神ネイガーも「地球環境を守ろう！」とネイガークイズを行い、小さな子どももエコについてのクイズに一生懸命答えていました。

イオンチアーズクラブ壁新聞

ソーラークッカーでエコクッキング！

会場内の様子

これからも県民一人ひとりが、環境について関心を持ち豊かな水と緑あふれる秋田になっていけば良いと思います。

平成26年度
環境大賞受賞者の紹介

県では毎年度、環境保全に関する実践活動が他の模範となる個人又は団体を環境大賞として表彰し、その活動事例を広く県民に紹介しています。

今年度も活動事例を募集したところ22件の応募があり、選考委員会において5件を平成26年度環境大賞として決定しました。

表彰は、平成26年9月6日（土）「あきたエコ&リサイクルフェスティバル」開会式において行われました。

堀井秋田県副知事を囲んで左から時計廻りに
地球温暖化防止部門を受賞した　公益社団法人秋田県林業育成協会　代表理事　武田　英文さん
地球温暖化防止部門を受賞した　秋北バス株式会社　常務取締役　小畑　靖彦さん
環境美化部門を受賞した　七曲工業団地連絡協議会　会長　佐藤　正義さん
環境保全部門を受賞した　鳥海山にブナを植える会　会長　須田　和夫さん
環境教育・学習部門を受賞した　大館市立釈迦内小学校　6年　畠山　竜迅さん

地球温暖化防止部門　公益社団法人　秋田県林業育成協会

秋田県内における森林造成活動並びに中国甘粛省における環境保全林造成活動

同協会は、戦争によって荒廃した秋田県内の森林の復興を目指し昭和25年に発足しました。現在までに60年以上にわたって森林造成活動を行っています。また、平成16年からは、中国甘粛省においても森林造成活動を行い、活動の輪を広げています。

地球温暖化防止部門　秋北バス株式会社

バス＆ウォーク事業

行きはバス停間を歩くことによりダイエット効果を図り、帰りは路線バスに乗車して自家用車と比較してCO_2を削減する取組「バス＆ウォーク事業」を近隣自治体と協働して行っているほか、「カーボンオフセット付回数券」の導入や「バイオディーゼル事業」の実施などの取組を行っています。

環境教育・学習部門　大館市立釈迦内小学校

ひまわりプロジェクト

休耕地を活用したひまわりの栽培や、収穫したひまわりの種からとれる油の販売を行う「ひまわりプロジェクト」に地域住民や近隣の園児・生徒・大学生とともに取り組み、環境保全や循環型社会について環境教育・学習を行っています。

環境美化部門　七曲工業団地連絡協議会

七曲臨空港工業団地とその周辺の緑化事業「アジサイロード戸島」計画

同協議会は河辺戸島に位置する七曲臨空港工業団地へ進出した企業によって平成3年に発足し、20年以上にわたって戸島地域を中心とした環境美化活動を地域と連携して行っています。

平成21年には「アジサイロード戸島」計画を実施し、現在、総延長7km、1,300株におよぶアジサイの植樹・管理を行っています。

環境保全部門　鳥海山にブナを植える会

鳥海山にブナを植える会

同会は鳥海山一帯にブナの木を植え、ブナの森を再生させることを目的として平成6年に発足しました。これまで20年にわたりブナの木を植える取組を行っています。取組には学校や企業等が協賛し、これまでの活動で植樹したブナの本数は35,088本にのぼります。

平成26年度の応募内訳

- 地球温暖化防止部門 …… 5件
- 循環型社会形成部門 …… 4件
- 環境教育・学習部門 …… 8件
- 環境美化部門 …… 5件
- 環境保全部門 …… 7件

循環型社会形成部門は大賞該当者がありませんでした。

環境学習の様子を紹介します！

環境学習会

秋田大学教育文化学部附属小学校

平成26年9月17日（水）に、4年生を対象に環境学習会が行われました。

はじめに、NPO法人環境あきた県民フォーラム事務局長菅雅春氏から、「地球温暖化に関するIPCC最新情報」についての説明がありました。次に、「水コース」、「エネルギーコース」、「ごみ・リサイクルコース」の3つのコースからこどもたちが興味のあるコースを選び、グループに分かれ、それぞれの課題について真剣に話し合っていました。グループごとに質問に答える場面では、次から次へと手が挙がり、たくさんの質問がありました。環境保全に対する意識の高さを強く感じました。

11月には学習発表会が行われました。「水コース」では、水と生物のかかわり、河川の汚染についての発表と汚染度や汚染水をきれいにする実験の演示がありました。「エネルギーコース」では、新エネルギーのそれぞれのメリットとデメリットについて、「ごみ・リサイクルコース」では、ごみの分別、資源の有効活用、企業の取り組みについての発表がありました。「私たちのできることはとても小さいですが、いつもみんなで環境を考えながら生活していきたいです。」という児童代表の言葉が強く印象に残りました。

こどもエコクラブ

能代市立第四小学校4年部こどもエコクラブ

平成26年6月10日・11日に、「住みよいくらしを支えている仕組みや人々のはたらきについて理解すること」を学習の目的として、株式会社秋田エコプラッシュの工場見学が実施されました。

ごみの計量の見学では、トラックごとごみの重さを量る計量台の大きさや、次々にトラックが搬入するごみの量に驚いていました。ごみの分別の見学では、再利用できるものとできないものに、さらに再利用できるものも原材料の種類ごとに分ける作業が手作業で行われていることにも驚いていました。

再利用されるプラスチックを細かくする機械や溶かす機械などを見たり、働く人たちから直接話を聞いたりしたことで、「普段何気なくごみとして捨てているものが、再び役に立つ製品になる。ごみの分別にもっと気をつけよう。」と、リサイクルへの思いを新たにしていました。

地域の企業と学校の協力により、こどもたちは「住みよいくらしを支えている地域の人々の努力」を知りました。さらに、「自分たちにできることは何か。」をしっかりと考え、環境に配慮した行動をしようとする意欲を高めることができた工場見学でした。

環境省の後援及び文部科学省の支援のもと、地方自治体や企業・団体と連携を図りながら、こどもたちの環境活動を支援する「こどもエコクラブ事業」を公益財団法人日本環境協会が実施・運営しています。

こどもエコクラブは、幼児（3歳）から高校生までなら誰でも参加できる環境活動のクラブです。こどもたちの環境保全活動や環境学習を支援することにより、こどもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることを目的としています。秋田県内では、33クラブ、2,168名が活動しています。（平成27年1月5日現在）

秋田県では、こどもエコクラブ地方事務局として、バンダナの提供やこどもエコクラブ交流会の実施などの支援をしています。詳しくは、秋田県公式Webサイト美の国あきたネット（美の国あきたホーム＞組織別案内＞生活環境部＞環境管理課＞こどもエコクラブ）をご覧ください。

環境マネジメントシステム（EMS）とは

組織や事業者が自主的に運営、経営の中で環境活動や環境保全関する取り組みを進めるために、環境方針、目的及び目標等を設定し、その達成に向けた取組を実施するための体制やプロセスのことです。

環境マネジメントシステムには、環境省が策定したエコアクション２１や、国際規格のISO14001があり、認証取得組織が増加しつつありますが、中小企業など向けに負担の軽い規格もいくつか制定されてきています。

環境マネジメントの必要性

地球環境問題に対応し、持続可能な発展をしていくためには、経済社会活動のあらゆる局面で環境への負荷を減らしていかなければなりません。そのためには、幅広い組織や事業者が、規制に従うだけでなく、その活動全体にわたって、自主的かつ積極的に環境保全の取組を進めていくことが求められます。環境マネジメントは、そのための有効なツールです。

また、組織や事業者の立場から見ても、環境マネジメントにより環境保全の取組を進めていくことには、次のような必要性があると言えます。

・消費者の環境意識は急速に高まってきています。環境にやさしい商品・サービスを提供し、環境にやさしい企業であることが、ますます求められています。将来を見通し、より積極的に環境に取り組むことが、ビジネスチャンスにつながります。

・地球環境の容量の限界を考えれば、環境保全に対する様々な規制や要請は、今後ますます強化されると予想されます。こうした動きに効果的に対応するには、環境マネジメントにより体系的に取り組むことが必要となってきます。

・環境マネジメントシステムの導入によって、コスト削減などの経営改善、取引先や消費者等の信頼性の向上及び従業員の意識向上等の直接的な効果が期待されます。

あきた環境優良事業所認定制度は

秋田県内の中小企業などに向けた経費負担が軽く、取り組みやすい環境マネジメントシステムとなっています。

あきた環境優良事業所認定制度登録事業所の紹介！

step2 株式会社東北ダイケン 秋田支店

〒010-0001 秋田市中通二丁目2−32
http://www.tohoku-daiken.com

昭和46年6月に創業、広く地域社会、顧客に支持される企業であることを念じ、一人ひとりの従業員並びに全ての組織が自主的・継続的に環境問題に取り組み、「環境負荷を低減する手法の開発と環境に調和した活動を続ける東北ダイケン」を実現しますという基本理念に基づいた環境管理活動の推進を経営活動の最重要課題の一つとして掲げ、7つの具体的な環境方針を定めて、東北各地で活動し秋田支店では、企業としての環境基本方針に則り、環境保全に配慮して行動し「環境マネジメントシステム」の構築と継続的改善に努め、1人ひとりの従業員、全ての組織が自主的・継続的に環境問題に取り組み、環境負荷を軽減する手法の開発と環境に調和した活動を行っています。

step1 株式会社　緑設計

〒010-0973 秋田市八橋本町4丁目10-26
http://midorisekkei.co.jp/index.html

昭和49年3月に創業、従業員13名の少数精鋭主義に徹し、常にチャレンジ精神を持ち、職員相互信頼の上に共存共栄の幸を築く、をモットーとして、地域の自然との共生を図り、環境共生企業として、循環型社会の構築に寄与することを理念とし「、自然環境調査及び農村景観保全、育成、里山づくり」、「自然観察会のの企画・運営・ガイド」、「公園緑地などの調査、計画、設計」をはじめ、道路・水路・造成、観光リクリエーション施設等の調査、計画、設計、施工及び監理など環境に関する事業を行っています。

あきた環境優良事業所認定制度のお知らせ

有効期間が3年から5年になりました。
申請・更新費用が、ステップ1が10,000円、ステップ2が30,000円になり、導入負担を軽減しました。

環境マネジメントシステムセミナー開催

日程 2015年2月10日(火)
午前10時～午後4時

温暖化防止活動について（IPCC最新情報など）
（15分程度）あきた環境優良事業所認定制度について
環境マネジメントシステム
エコアクション21の実績などを交え、わかりやすく解説します。
（セミナー終了後相談会を設けております。利用ください。）

詳細・問い合わせ先 **特定非営利活動法人　環境あきた県民フォーラム**
〒010-1403 秋田県秋田市上北手荒巻字堺切24-2
遊学舎内
TEL/FAX　018-839-8309

低炭素杯2015

日程 2015年2月13日(金)・14日(土)

会場 東京ビッグサイト　国際会議場
（東京都江東区有明3-11-1）

同時開催 特別シンポジウム　低炭素杯2015で検索

詳細・問い合わせ先 **低炭素杯2015事務局**
一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町1-12-3
第一アマイビル4階
TEL：03-6273-7785 / FAX：03-5280-8100

特定非営利活動法人 環境あきた県民フォーラムは10周年を迎えました。

平成27年2月20日（金）に一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット専務理事 菊井順一氏の記念講演を予定しています。
詳細は、特定非営利活動法人　環境あきた県民フォーラムのホームページに掲載します。

特定非営利活動法人　環境あきた県民フォーラムでは、「グリーン電力証書」を発行しています。
企業のカーボンオフセット(二酸化炭素排出量削減)にご利用いただけます。
企業のイメージアップ(環境付加価値)にご利用ください。

※グリーン電力証書販売は、一般社団法人　あきた地球環境会議でも受け付けています。

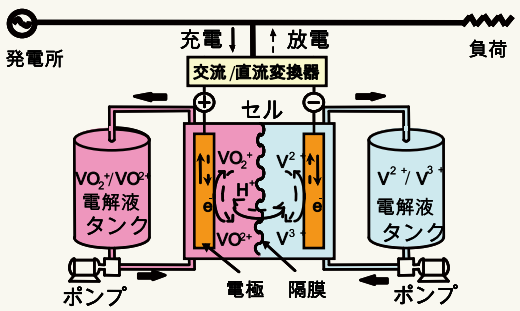
レドックスフロー蓄電池を知ってますか？

再生可能エネルギーによって発電した電力の平準化やピークシフト対応の電力貯蔵用蓄電池として注目を集めています

レドックスフロー電池（以下「RFB」。）は、レドックス（酸化還元）反応を起こす物質（活物質）を含む溶液（電解液）が、反応槽（セル）と貯蔵タンクとの間を循環することで充放電する蓄電池です。
バナジウムが、電子を放出したり吸収したり、形態を変える性質を利用して、充放電を行い、電解液タンクの中に電気を貯めることができます。
広い設置場所があれば、タンクを増やすことで蓄電量を増やすことができることから、太陽光発電や風力発電との相性がよいと注目されています。
1974年にNASAが基本原理を発表し、現在、日本ではバナジウム電池として実用化技術が確立されています。

◎RFBの特徴
【安全性】　……発火性、発ガス性、発毒性の使用発生がない。
【長寿命】　……1万回以上の使用可能。
【大型化が容易】　……電解液に比例して蓄電量も増加。

レドックスフロー電池の原理と構成



出典：独立行政法人産業技術総合研究所
燃料電池システムグループウェブサイト

発行
秋田県生活環境部環境管理課
〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号
TEL 018-860-1571　　FAX 018-860-3881
E-mail　kankan@pref.akita.lg.jp

編集
NPO法人 環境あきた県民フォーラム
秋田県地球温暖化防止活動推進センター（ACCCA）
〒010-1403 秋田市上北手荒巻字堺切24-2　遊学舎（秋田県ゆとり生活創造センター）内
TEL・FAX　018-839-8309　E-mail　mail@eco-akita.org
ホームページ　www.eco-akita.org/onsen

ストップ！温暖化

VEGETABLE OIL INK
環境ニュースレターは、植物油インキで印刷しています。